

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075500472
法人名	有限会社 木蓮
事業所名	グループホーム木蓮の家
所在地	福岡県宮若市長井鶴263-7
	(電話) 0949-32-5120 (FAX) 0949-32-5120

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年7月28日	評価確定日	平成19年8月15日

## 【情報提供項目より】(平成19年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,800 円	その他の経費(月額)	水光熱費 10,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円

### (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

登録人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	6 名	要介護2			
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低 68歳	最高 93歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	安部病院 有吉病院 宮田病院 千々和病院 塩川歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「木蓮の家」は旧炭鉱町の住宅地の一角にある1ユニットのグループホームである。「暖かな見守り介護」を運営理念に掲げ、介護計画に沿った個別的ケアを実践している。施設長でもある管理者は、入居者の生活を支援するには家族の協力や理解が重要だと、入居希望者がある場合は本人の体験利用ばかりでなく、家族もホームで食事をしていただく機会を設けたり、ホーム開設まもなく家族会を発足し、家族の意見をホームの運営に反映している。隣接する協力医療機関との連携で、定期的な往診や訪問看護を受け、重度化に伴う同意書を整備し、入居者の健康管理や生活支援を行っている。定期的に運営推進会議が開催され、入居者、家族、市担当者、民生委員や地域住民代表等適切なメンバーが参加しているが、今回は警察や消防関係者に更なる協力や理解をお願いしたいと運営委員会の案内状を送付予定である。又、管理者は、近隣のグループホーム間で研修や意見交換を行うことで、地域密着型サービスの向上に貢献したいと話している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえ、運営理念を解りやすい文言で大きく掲示したり、介護計画様式の統一、介護日誌記録の見直し、身体拘束・感染症のマニュアルの作成、成年後見制度等のパンフレットの整備など、具体的な取り組みがある。特に、介護計画及び介護記録の充実が顕著である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価を理解し、全職員で年1回自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に関する規程を定め、市担当者・地域住民代表・家族代表の参加で2ヶ月毎に開催している。会議では前回の外部評価結果を報告したり、ホームの運営について意見交換をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、公的機関の苦情担当窓口が記載されたポスターを掲示している。ご意見箱に投函された意見等は、検討した結果を家族に報告し、クレーム報告書に記録している。ホーム開設間もなく家族会を発足し、年1~2回開催している家族会で、ホーム運営の報告や意見交換をしている。入居者の日ごろの暮らしぶりは2ヶ月毎に書面で家族に報告したり、訪問や必要に応じて随時状況を報告することで、家族の意見の表出を促している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会への加入を自治会長等に相談した結果、介護サービス事業者の加入は前例がないことや、組織が複雑であること等で加入していないが、清掃等の自治会行事は参加している。商工会に加入し、文化祭やお祭りに参加している。本年度は福祉祭りのイベント参加(バザー等)を計画している。また、地域高校のインターシップや実習生を受け入れてホームの機能を地域に還元したり、社交ダンス等のボランティアの来訪もあり、共有空間でダンスを楽しんだりしている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度改正に伴う地域密着型サービスの法令である「家庭的な環境、地域との交流の下」について全職員で検討し、運営理念を共有空間・事務室・玄関等に大きく掲示している。	○	法令の改正を理解し、地域との交流も進みつつあるので、パンフレット・重要事項説明書等に地域密着型サービスであることを謳っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で朝のミーティングや毎月の定例会議で運営理念について話し合いを行い、日頃から実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入を自治会長等に相談した結果、介護サービス事業者の加入の前例がないことや、組織が複雑であること等で加入はしてないが、清掃等の自治会行事には参加している。商工会に加入し、文化祭やお祭りに参加している。本年度は福祉祭りのイベント参加(バザー等)を計画している。又、地域高校のインターシップや実習生を受け入れホームの機能を地域に還元したり、社交ダンス等のボランティアの来訪もあり、共有空間でダンスを楽しんだりしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の評価を踏まえ、運営理念を解りやすい文言で大きく掲示したり、介護計画書様式の統一、介護日誌記録の見直し、身体拘束・感染症等のマニュアルの作成、成年後見制度等のパンフレットの整備など、具体的な取り組みがある。特に、介護計画及び看護記録の充実が顕著である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程を定め、市担当者・地域住人代表・家族代表の参加で2ヶ月毎に開催している。会議では前回の外部評価結果を報告したり、ホームの運営について意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催により、管理者は市の担当者と意見交換の機会が多くなり、ホームの機能を活用した研修会等も開催する予定である。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修会に参加し、制度を説明する書面を玄関等に設置しているが、入居者や家族に制度について説明していない。	○	入居契約時や金銭管理等の説明の折に入居者や家族に成年後見制度等を説明し、その記録をお願いしたい。又、運営推進会議で、成年後見制度等について学ぶ機会を設けてはどうかでしょうか。
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の暮らしぶりは家族等の訪問時報告したり、2ヶ月毎に書面で報告している。医療受診状況は随時家族に連絡し、家族談話記録に記載している。預かり金は個別に出納帳を作成し、定期的に家族に報告し確認印がある。職員の移動は、家族が訪問した折りに報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、公的機関の苦情担当窓口が記載されたポスターを掲示している。ご意見箱に投函された意見等は、検討した結果を家族に報告し、クレーム報告書に記載している。ホーム開設間もなく家族会を発足し、年1～2回開催している家族会で、ホーム運営の報告や意見交換をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性を十分に理解している。新規採用職員は地域のグループホーム協議会の新人研修参加等で、認知症及び認知症ケアを学ぶ機会を設け、離職を少なくする努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員を採用する際は、管理者と他職員で面接し、性別・年齢の制限はないが礼儀をわきまえた人物を採用している。就業規則が整備され、雇用契約書を取り交わしている。職員の資格取得を支援するために、夜勤専門のパート職員を採用したり、事務室兼用の休憩室を設け、生き生きと働ける環境づくりをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権研修に参加したり、入居者への声掛けや対応を通じ人権について朝のミーティングや定例会議で話し合いをしているが、会議録がない。身体拘束に関するマニュアルは整備しているが、虐待防止マニュアルがない。	○	介護サービス従業者の人権学習は必須であるので、研修参加記録や研修開催記録の整備が求められる。虐待防止に関する研修会には参加しているので、マニュアル作成をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて地域のグループホーム協議会主催の研修会参加を支援している。又、研修会参加者は研修報告書を作成し、ホーム内で伝達している。職員の悩みは施設長が相談相手になっている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入しているが、近隣のグループホームと小グループで連携しながら、地域密着型サービスの質の向上に取り組むたいと話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族とともにホームの食事をするなどで、馴染みながらのサービス利用を促している。今後は、共有空間を利用した通所介護も検討中である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に料理や味付けを教えてもらったり、入居者が率先して共有空間の清掃を手伝ったり、共に過ごし支えあう関係づくりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者及び家族の意向、生活歴・病歴・生活状況や日常生活動作・状況の把握がされているが、記載項目が少ない。本人の意向が把握できない場合は、家族の意見や日頃の会話等で検討している。	○	毎月、入居者毎に日常生活動作・状況をモニタリングしているので、認知症の特性を把握できる東京センター方式等のアセスメント表の活用をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントした生活歴、日常生活動作・状況等、入居者や家族の意向に沿って、全職員で個別的・具体的な介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、担当職員が日常生活動作・状況等をモニタリングしている。それに基づき、随時及び3ヶ月毎に介護計画を見直している。見直した介護計画は家族等に説明し確認印がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、家族の状況に応じて遠方の医療機関受診に同行し、重度化を防止している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の協力医療機関と連携し、定期的な往診や緊急時の対応をお願いしている。往診時の指示に沿って、週1回の訪問看護でバイタル・内服状況を把握し、看護記録に記載している。内服薬等の変更は業務日誌や連絡帳で全職員に伝達している。家族にも受診状況を随時報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う方針が作成され、家族に説明し同意を得ている。月2回の往診や、週1回の訪問看護で健康管理を行い、家族に随時連絡することで、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書で守秘義務や同意を得た情報についての取り扱いを明記しているが、個人情報の保護に関する規程の整備がない。職員は入居者の誇りを尊重した対応をしている。	○	個人情報の保護に関する規程を整備し、入居者や家族に配布するとともにホーム内の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活暦・生活状況等を把握し、各入居者のペースに応じた生活を支援している。入居者の希望を活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、味付け、配膳、片付け等で入居者の力量に応じた関わりを支援している。職員は入居者と同じテーブルで味付けやメニューを話題にしなが、和気藹々と同じ食事をしている。食のすすまない入居者には、職員のみならず他の入居者も声を掛けている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の要望に応じて、毎日入浴できる体制をしている。入浴拒否者には、足浴や清拭で保清している。ゆっくり、入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴・職歴を把握し、食事づくり・梅干しづくり・工作等を支援したり、カラオケが好きな入居者もあり、月2回カラオケもしている。役割・楽しみごとを支援するために、職員がレクリエーション企画書を提出し、全員で検討している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に合わせて、水族館やレストランに出かけたり、入居者の馴染みの美容院や店舗での買い物支援している。ドライブ記録書を作成し、良かった点や反省点を今後の外出に活かしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に施錠はしていない。職員が見守りできる体制づくりをしているが、事務所が玄関傍にあり、入居者の動向の把握が容易である。隣の住民宅を緊急連絡先をお願いするなど、近隣の協力は得られるが、警察・消防関係者や地域包括支援センターに協力をお願いするために、運営推進会議の案内状を出す予定である。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成し、避難訓練も実施しているが、地域と共催した訓練には至っていない。消火器は整備しているが、非常災害時の備蓄はない。	○	今後は地域の協力を得ながら非常災害訓練をお願いしたい。また、非常災害用備蓄の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎に1日のおよその摂取カロリー、食事摂取量、水分摂取量を把握している。糖尿病の食事支援は主治医の指示でコントロールしたり、嚥下や咀嚼状態に応じてメニューを工夫している。毎月、体重を測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口は、座って靴が履けるように椅子を設置している。共用空間・厨房を中心に各居室があり、居室から出れば職員の姿がどこからも見える構造で、入居者の安心を得ている。共有空間には食卓や椅子、ソファが置かれ、入居者はお気に入りの場所で居眠りをしたり、テレビを見ている。厨房で作る食事の匂いやまな板の音が共有空間に漂い、家庭的な雰囲気である。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、箆笥等の馴染みの家具や日用品が持ち込まれ本人が過し易い居室づくりをしている。ベットはホームで用意しているが、ベット柵や移動バーの活用で起き上がりが容易な入居者には、電動ベットや補助具のレンタルを支援している。		